

寒さを吹き飛ばせ!

各地区で将棋、囲碁大会

記録的な大雪に見舞れた今年の冬ですが、ようやく大地にも春の息吹が感じられるようになってきました。こんな中、恒例の室内遊技大会が各地区の公民館などで行われ、戸外の寒さも吹き飛ばすほどの熱戦が繰り広げられました。大会の結果は次のとおりです。成績は優勝者のみ。

〔囲碁〕
二月十九日、ありのみ荘、参加者三十五人
Aクラス——瀬高英三(栄町)
Bクラス——森田半右エ門(木崎)
Cクラス——木竜和明(鳥屋)

第四回早通地区室内遊技大会

〔将棋〕
二月二十六日、いするぎ荘、早通児童センター、参加者二十九人
大人の部一組——宮本清次(早通北三)
大人の部二組——島田善一(早通北三)
子供の部一組——佐野将義(早通北二)

通北二)
子供の部二組——目黒和祐(早通北二)

〔囲碁〕
二月二十六日、いするぎ荘、参加者二十二二人

Aクラス——熊倉豊(須戸)

Bクラス——伊藤光郎(早通北一)

Cクラス——須藤昌子(早通北五)

〔小倉百人一首〕
二月二十六日、早通地区公民館参加者三十二人
畠山リカ(下早通)

第二回長浦地区将棋大会

二月二十六日、大王荘、参加者四十六人
A級——魚野正行(浦木)
B級——鈴木新一(長場)
C級——川崎和男(長場)

第九回岡方地区将棋大会

三月十一日、大阿賀荘、参加者四十二人
A組——横山吉夫(森下)
B組——品田静雄(高森)
学生の部——曾我豊(平林)



早通いするぎ荘で(2月26日)

第五回木崎地区将棋・囲碁大会

〔将棋〕
二月十二日、ありのみ荘、参加者三十二人
A級——帆刈喜代司(笠柳)
B級——田野敏夫(尾山団地第三)
小学生の部——川崎則夫(内島見)

市民文芸

俳句

水温む川辺のものに陽が絡む 松永 松翠

水温む川釣人の日毎増ゆ 町谷白洋史

水温みバサツと雪庇崩れけり 松田 吐思

絵皿洗ふ手の感触に水温む 山崎 智盛

逆上る鮒が陽を跳ね水温む 後藤ヨシイ

川柳

「自由吟」 豊柳会 師橋山雨選

雪丈余隣へ電話元気らけ 井上 睦子

たばこ吸う紅一点に距離を置く 阿木 礼太

おびきまひます

市民大学講座は心の栄養

石山 葉子さん(川西一、五三歳)



みようと買ったんです」

講座の内容は、「今年の講座は、二葉亭四迷や樋口一葉など明治時代の作家とその作品についてなんです。受講者は三十歳代から七十歳代までの五十人位で、だいたい男女半々でしょうか。毎週土曜日の午後二時から四時まで、全部で六回開かれます。新潟大学の先生が講師なんですけど、お話が上手で、二時間なんてあっという間ですね。古代文学の時から受講していますが、いつの時代でも作家の心情は同じなんだなあと感じます」

「明治の文学を学ぼう」と題した市民大学講座が、現在、中央公民館で開かれています。受講生の一人石山葉子さんにお聞きしました。受講するようになった動機は、「市民大学講座を聞くようになって今年で四年目ですが、小さいころから小説を読むのが好きでした。市政だよりを見て、受講して

講座に参加しての感想は。

「説明が分かりやすいので、ついつい作品に引き込まれてしまいます。この前、樋口一葉の『たけくらべ』という作品を勉強したんですが、少女時代のことを思い出したりして胸がときめきました。とかくせちがらい世の中、たとえ週一回二時間でも、没頭できることが大変うれしいです」

石山さんの読書法といったら?

「実は、近所の奥さん方十二、三人で親和会という読書グループを作っているんです。二か月に一回、新潟の県立図書館へ行き四十冊位の本を借りてきて、会員の家で置き、必要な時に借りて読んでみるんです。もう四、五年になるでしょうか。時々、地元の公民館で感想を話し合ったりしています。今は昔ほど本を読まなくなりましたが、講座は本当に楽しみです。講座を聞くことは『心の栄養』だと思っていますので、これからもできる限り続けてほしいですね」

景色の描写がすばらしく、文章がきれいなので瀬戸内晴美の小説が好きだという石山さんは、旅行が好きで、旅の思い出を短歌にしたりすることもあるそうです。

搾取する手に噛みついた労働歌 吉間 港月

ワイロとは書いてなかった熨斗袋 佐藤啓四郎

帰省して三年味噌の亡母に会う 水田蛙太郎

短歌

豊栄短歌会 五十嵐清選

足跡とおぼしき凹みをたどりつつ 中野 彰

雪の峠を踏みわけて越ゆ 阿部 志き

風雪や肩に重たき冬籠り空を見上げて春の待たるる 小池 ムツ

冬囲ひ解けば蕾のふくらみて春を待ちあふる乙女椿よ 高橋 君枝

久々に友と集ひて語らひばわが青春の一コマも出る 高橋 君枝

雪解けの川辺に萌ゆる猫柳春の陽まぶしく銀の穂光る 小暮 和子